

園だより

第1号（平成30年5月発行）文責：一新幼稚園長 山岡 喜美子

新学期が始まり、1ヶ月が経ちました。進級した年長・年中組は、新しい環境に慣れながら、これまでの園生活の経験をもとに遊びを展開しています。年少組は、おうちの方と離れて過ごす園生活に少しずつ慣れてきました。

今年は、創立百周年を迎えます。塩田後援会長が実行委員長になられ、地域、幼稚園OB、旧後援会、旧園長の皆様のご協力のもと、記念事業を進めているところです。幼稚園では、子どもたちにとって心に残る記念の一年となるような行事を計画していきます。「子ども自分らしさを発揮し、主体的に生活し、心豊かな子どもを育てる」ことを目標に、家庭、地域と連携しながら取り組んでまいりますので、皆様のご協力をよろしくお願い致します。

春の恵みにであう子どもたち



「先生、ほら見て～」イチゴや青虫をそっと手にのせ、大事そうに扱う子どもたち

子どもたちは、園内の自然の変化に敏感です。「(サクラamboを)べた～い。取って～」「イチゴ、赤いよ」「(ハッサク)酸っぱいけど食べてみるよ」などなど、春の味覚を楽しみました。

また、「(レンガを指して)ここの下にダンゴムシがおるよ」「パンジーから毛虫いっぱいとったよ」と、虫との遭遇に目を輝かせました。

5月になると、こいのぼりが風に揺れる様子を見たり風車を作って遊んだりしながら、5月の風を感じていました。

春の自然は、子どもに発見する喜びを与えてくれました。

わたしのからだは元気かな

歯科、内科・眼科・耳鼻科の健康診断が終わりました。年長児は、自分の体のための検診であることを十分に分かっており、余裕の表情でお医者様と対面し、一人一人お礼を言って済ませました。年中児は、待っている間、友達とお医者様の様子や検診のために準備されたものにも興味をもちながら受けました。年少児にとって初体験の検診は、ドキドキのひとつときです。あらかじめ年中児の受ける様子を見てから始めるようにしたものの、不安でいっぱいの子どももいました。歯を食いしばって口の中を見せてくれない姿や、「怖いよ～」と泣いて近づかない姿には、お医者様の方から子どものそばに近づいて診ていただきました。検診を済ませた子どもは、「できた」と嬉しそうに伝えにきました。こうして、みんなと同じことが一人でできるたびに、小さな自信を積み重ねていき、主体的に生活できるようになっていきます。このあと、視力検査が終わったら結果を配付する予定です。



後援会活動開始!

5月18日、後援会総会が開催されました。総会を開催するにあたり、執行部会、役員会にて議題についての協議が重ねられました。新役員の紹介、会則の読み上げ、後援会組織の説明、予算案の審議、活動計画の説明等が進んでいきました。それぞれの立場で話していただく中に、「すべての子どもが充実した園生活を送れるよう」「こどもたちのために」「豊かな環境の中で教育を受けさせたい」「子どもたちの身につくように」の言葉がたびたび聞かれました。子どもの利益となることを第一に考えてくださっていることが本当にありがたく、「幼稚園と協力して」「幼稚園運営を後援する」の言葉は、私たち職員のやる気を後押ししてくださいました。一年間、お世話になります。



100周年記念夏祭り&バザーについて

例年秋に開催されていたバザーですが、今年は、100周年記念式典（12月1日）を行うため、秋の開催が困難になります。そこで、今年は、子どもたちの「夏祭り」と同時開催となります。夏祭りは、年長児の和太鼓演奏から始まり、一新音頭を踊り、各コーナーでゲームを楽しみます。バザー班による「子どもバザー体験」は、今年限りの催しで、大変楽しみです。（未就園児も楽しめるそうです。）バザー班では、物品バザー用の不用品が集まりにくいことや食中毒の心配から、当初バザーの内容縮小も考えましたが、できるだけのことをしようとアイデアを出し合って準備を始められました。夏祭り&バザー当日には、子どもたちの手作りうちわを配付する予定です。（いっしょに踊りましょう）みんな楽しんで一日となりますよう、ご協力のほどよろしくお願い致します!!

